

令和5年豊能町議会 第2回
交通特別委員会

会 議 録

令和5年4月24日（月）

豊 能 町 議 会

令和5年豊能町議会 第2回
交通特別委員会

年 月 日 令和5年4月24日（月）
場 所 豊能町役場 大会議室
出席委員 6名
永並 啓 池田 忠史 才脇 明美
中川 敦司 寺脇 直子 高尾 靖子

欠席委員 なし

委員外出席 管野英美子（議長）

本委員会に説明のため出席した者は、次のとおりである。

町 長 上浦 登 副 町 長 高木 仁
政策監兼住民部長 大西 隆樹 総 務 部 長 入江 太志
総 務 部 理 事 松本真由美 まちづくり創造課長 田中 久志

本委員会に職務のため出席した者は、次のとおりである。

議会事務局長 浜本 正義 書 記 杉田 庄司

本日の会議に付された案件は次のとおりである。

1. 能勢電鉄への要望事項について
2. その他

午前 9 時30分 開会

○委員長（永並 啓君）

おはようございます。

それでは交通特別委員会を開会したいと思っております。ただいまの出席委員は6名であります。

定足数に達しておりますので、第2回交通特別委員会を開会いたします。

委員会の開会に、当たりまして町長から御挨拶がございます。

上浦町長。

○町長（上浦 登君）

おはようございます。

今、委員長おっしゃいましたように1月13日が1回目ということで、本日2回目ということでございます。

交通特別委員会ということで、本日は能勢電の関係を御議論いただけるということになってございますが、私どももいたしましてもですね、交通網につきましてはまちづくりの根幹だと考えてございますので、前向きにいろんな形で御議論をいただきましてですね、これからの引き続きのまちづくりに取り組んでいけたらと思ってございますので、よろしく願いをいたします。

以上です。

○委員長（永並 啓君）

ありがとうございました。

それでは、これより本日の会議を開きます。

本日の協議事項は、御手元に配付のとおりであります。

まず1番目、能勢電鉄への要望事項についてです。

昨年12月17日から、妙見線は山下駅で乗換えとなりました。能勢電鉄を利用される住民の皆さんは大変不便を感じておられることと思っております。

今年2月15日に、交通特別委員会の正副委員長と管野議長で能勢電鉄を訪問した際、その経緯などについて、能勢電鉄の中野社長をはじめ役員の方から詳しい説明を受けました。

その内容につきましては、3月10日の全員協議会で報告させていただいたとおりでありますが、今日は、理事者の皆さんと一緒に改善策を協議し、要望事項として取りまとめればと思っております。

そのあと、町長はじめ理事者の皆さんとともに、能勢電に陳情要望に行きたいと思っております。

ただ、今日一日だけで取りまとめるのは困難かと思っておりますが、意見交換をしながら、良い案を見つけていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

参考といたしまして、住民の方からもいろいろ御意見を議会のほうにもいただいております。掲載しておりますので、まず初めに、委員の皆さんから御意見をいただきたいと思っております。

○委員長（永並 啓君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

おはようございます。中川です。

我々からの意見といいますのは住民さんからいただいたこの何点かな、この8点、これに対する意見というふうにとらえたらいいんですか。

○委員長（永並 啓君）

はい。それはあくまでも住民さんからも、能勢電鉄に対してこういったことをしたらいいのではないかっていう要望をいただいておりますので、それも参考にしながら交通特別委員会のほうの皆さんの意見も出していただいて、それをまとめた上で、能勢電鉄のほうに要望しに行きたいと思っておりますので、この場では、それぞれの委員さん

がこういった、具体的な案などがあるかどうかという御意見ですね。

○委員長（永並 啓君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

私もこれ、この会議始まる直前にざっと内容見させていただきました。

いや非常に難しいと思われるような内容もあるんですけども、ここには書かれてはないですけども、妙見口から川西能勢口まで直行便、もともとあったようなやつですね。

それが出来たら一番いいかなと私は思いますけども、その折衷案ではないですけども向こうは多分厳しいんだろうけども、そういった意味で中間点として、平野駅がありますんで、平野駅の折り返しとか、場合によってはありかな。

いわゆる妙見口から平野まで電車を走らせてもらう。そこで後続の便に乗換えてもらうとかいうそういうふうなやり方も、一つあるのかなと思いますので、今まだじっくりとこれでいけると私も判断できる材料はございませんが、一応そういうのもできるのかなと。

平野駅は結構プラットフォームの数ありますし、車庫もある加減で結構分岐ポイントですね。

それぞれ配置されておりますので、電車の入替えとかそういったことには、都合がいい駅なのかなと思ったりもしますので、一つの案として提案をさせていただきます。

○委員長（永並 啓君）

ありがとうございます。

住民の皆さんからいただいた意見というのも多分、ここにおられる委員の方が考えられた意見と多分、かぶる部分もたくさんあると思いますが、それでも全然構いませ

るので、こういったこととしてはいいのではないかっていう、今中川委員が示されたような御意見以外にも、ざっくばらんにおっしゃっていただけたらと思います。

中川委員。

○委員（中川敦司君）

住民さんからいただいている内容で、文章読んで、そやなそやなみたいなわかる範囲もある部分もありますけども、これどういうことなのかな、あとちょっと、理解にちょっと苦しむちょっと難しいなというような内容、特に何番線から何番線にとかいうね、プラットフォーム移動みたいなね、ホーム移動みたいなことをせなあかん。

そういった部分については、それがいいかどうかというのはしっかりとその内容を理解しないことには判断が出来ない部分もあろうかと思うので、その辺りはしっかりと吟味をするべきかなと思いますが、どう思いますか皆さんわかりますか。読んでそうかそうかと全部理解されてるのかどうかちょっとその辺りもちょっと私心配なんですけども、どうでしょうかね。

○委員長（永並 啓君）

なかなか細かい内容のところまで住民の皆さんからの意見では書かれていますんで、費用の面とか全く計算してない部分も多々あるかと思います。

実際に要望に行く際は、そこら辺も、余りにもむちゃな要望しても全然実現性が低くなりますんで、ある程度コストの面も事務局とも連携しながら、コストの面もそれなりに詰めて、ちょっと現実的なものっていうものを、要望に行きたいと思っています。

今日はそこら辺のコストのほうもある程度考えてもらいたいんですが、様々な意見を出していただいてその中から後日、ある程度詰めた上でまた皆さんのほうと協議を

していった最終的に幾つか数点の要望事項にまとめたらいいかなというふうに考えている次第です。

○委員長（永並 啓君）

才脇委員。

○委員（才脇明美君）

これは、私、まちづくりの問題だと思うんですね。まちづくりグランドデザインというのが、それが、能勢電鉄には伝わっていない。そのことが大きな私は要因だと思うんです。

先日、木曜日か水曜日やったかな私、向こうのほう行きましたら、尼崎の工業高校の男子生徒が能勢電鉄を利用して妙見山に行っていました。

そういう、自治体がいろんなこの案を考えてまちづくりをしていく、それに交通事業者も乗ってくると思うんですね。

能勢電はとてもお金を持ってらって私、聞いたことがあるんです。

町がいろいろな計画を立てて整備していったらどんどん協力するというのも聞いてます。そして以前に、そのことを建設の方に聞いたら、近畿圏整備法にちょっとひっかかって何も出来ないんだと、そういうことを言われましてこれはもう法的な問題が多々あると思うんですが、それを改善していくというかそれを、大阪府や国に持っていくのが自治体の役割かなとか思うんです。

これ、人口減少、乗車数の減少が、これはもうどこも、私ちょっと調べましたらもうどこ東京メトロもそこも、3分間隔4分間隔この今回のダイヤ改正で5分間隔になってると聞いてます。

これはもう全て人口減少、高齢化で、これはもう、日本全国の問題だと思うんです。

ですから、この人口減少とかの問題よりもまちづくりをもっと活性化していったら

能勢電鉄もしっかりと豊能町を見てくれるのかなと思うんです。すぐには出来ない問題かも知れません。そしてもう一つ、この電鉄、これからは、全自動運転カーが近い将来必ずやってくると思うんです。

電鉄に頼らなくてもこの山間部では、道路整備も私は進んでいくと思うんですね。

そういうのも鑑みて、調整していかな駄目かなあと思うんです。

今のところ以上です。

○委員長（永並 啓君）

はい、ありがとうございます。

当然ながら豊能町のまちづくりの観点から言っても光風台、ときわ台、妙見口の駅前の活性化なども非常に重要になってくるかと思えます。

そういったところは本当に長期的なまちづくりの施策を打ち出したうえで、能勢電さんとも連携していくということが非常に重要になるのかなと。

同時に一方で、今、走ってる能勢電鉄を今利用されている住民の方に対して、今回のダイヤ改正というものが、ちょっと余りにも豊能町に住んでおられる住民の皆さんに対してちょっと不便さを強いるものであったため、少しでも利便性を高めるようなことが出来ないかというところで、交通特別委員会もつくっておりますので、当然才脇委員おっしゃられるようにまちづくりの観点も含めてということも非常に重要なんです。今回のところでは、能勢電さんのほうで対応していただける内容について取りまとめることが出来たらなというふうに考えています。

ほか何かございませんか。

○委員長（永並 啓君）

寺脇委員。

○委員（寺脇直子君）

今回、山下の乗換えのところとかで住民

の皆さんがちょっと不便になってるんじゃないかという話なんですけども、この住民の皆さんのこの要望の川西能勢口、妙見口間を基本として、何ていうんですかね。可能であればできるだけ高齢化なんでバリアフリーのことも書いてあるんですけども、乗車する方っていうのも、豊能町以外でも、日生中央の方にしても近隣の方、町も当然高齢化してくると思いますし、豊能町は非常に高齢化率大阪府下でも一番高いんですけども、豊能町だけじゃなくてこれから近隣の川西とか、ここを利用してる近隣の町も高齢化してくると思いますんで、高齢化に合わせた交通の在り方とか、バリアフリーも含めて、そういう視点で要望していくのもいいのではないかと思います。

○委員長（永並 啓君）

はい、ありがとうございます。

ほかございませんか。

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

これまで言ってきたことなんですけれども、塩川町長時代に、まちづくりの人口を増やしてほしいという要望が能勢電からも出されて私たちも要望に行ったときに聞かされておりました、やっぱり人口が減ったというのが一番大きな原因だと思うんですね。

それはもう、先ほど申し上げましたけども全国的な問題なんですけれども、そのために子育て支援とか何かいろいろ言ってきたんですけども、それがまだコロナ禍でなかなかいいように展開して行ってないというところが大きな問題だと思うんですけども私、この間、住民の方からも、新たな問題として高齢者の方だけではないんですけども、やはり物すごく不便だと。

それで、能勢電鉄はときわ台、東ときわ台開発ですごく頑張ってくれて、まちづくりとして、皆さんが住まれてきたという、

開発した能勢電鉄がなぜこんな不便なことを逆にしていくんだということをしごく言われてまして、こういうサービスが減退することはもってのほかやいうことですごく何回も電話をかかってきました。そういう思いを持っている方がおられるということ。

それと、私も何回も電車に乗っておりますけれども、川西から帰ってきたときに、やはりエレベーターをたくさん利用されて、赤ちゃんを乗せた乳母車の方が乗っておられそこで乗ったりおいたりするのに時間がかかってやはり3分間の時間では次の乗り継ぎのところまで行けない、それで10分間待ちました。

そういう状況がやっぱり今からは夏場になるから涼しいですけども、冬場はね。それこそ夜になると寒い、大変厳しいところなので、そのところの次への改善をね、ぜひ、ここの交通特別委員会でね、言っていないといけないのかなと思っております。

強く感じております。

そういうことです。

○委員長（永並 啓君）

才脇委員。

○委員（才脇明美君）

こんなこと言ったらもう絶対に町民の皆さんお怒りになると思うんですけど、公共交通を使わない人、車しか乗れへんねんという人もおります。

しかしそれで、町全体で、住民にちょっとでも負担していただければ、通学される学生もいます。

ちょっとでも、全員が当然全体で、ちょっとでも負担してあげたらこの住みやすいまちづくりになるんじゃないかなと。

これ完全にもう反対されてもうすぐバスシグを受けると思うんですけど、それがまちづくりだと思うんですね。

東地区、能勢電乗ったことないわ、でも、

同じ豊能町の住民です。でも、それをちょっと考えたらどうかなとふと思ったんですが、赤字の問題、黒字の問題、お金の問題ですから。

そしたら、豊能町もそういう気でおるんやと思ったら、能勢電鉄でもちょっと考えてくれるんじゃないかなと。

今までやったらもう、もう見捨てられて、先ほど高尾委員おっしゃったように今までは一生懸命頑張ってくれていたのに、自治体が一生懸命せえへんののに何で能勢電が一生懸命せなあかんねんという感じになってるのではないのかなと思う次第です。

○委員長（永並 啓君）

ほか何かございませんか。

中川委員。

○委員（中川敦司君）

今日に結論を出すじゃなくて、しばらく時間かけて揉んでいくみたいなことをさっき委員長おっしゃったと思うんですけども、これってお尻はどこに設定する、いつまでに、その辺りは何か考えておく必要があるのかどうか、ちょっとその辺りどうでしょうか。

○委員長（永並 啓君）

まだ具体的にお尻いついつっていうまでは期限を決めてないんですが、やはり住民の皆さんが利用している現時点で利用している問題ですから、まとめられるのであれば早急にまとめて、要望のほうには一度能勢電のほうにぶつきたいなというふうには思っております。

高尾委員おっしゃられましたけれども、これまでちょっと、塩川前町長時代に第1回の交通特別委員会で経緯をちょっと確認させていただきましたが、能勢電と交渉らしい交渉されていないような部分が見受けられました。

ですから、第1回目の2月のときの訪問

には僕と池田副委員長と管野議長の3人で行きましたけども、今回の要望の際は、理事者、町長・副町長はじめ何名かの方も一緒に能勢電鉄のほうに要望に行けたらと思っておりますので、まとめるのであれば、早急にでも、今日はもうなかなか難しいのはもう十分わかっておりますので今日はもう本当に、ちょっとぶつ飛んだ意見でもいいかと思うんですよ。

こんなんあったらいいんじゃないかっていうそれをある程度ちょっと詰めて、ちょっとこれは現実的でないよねっていうようなところを精査していきたいなど。

それでまた次回のときに、そこら辺も踏まえて報告させていただいて、最終的に2点か3点ぐらいの案にまとめることが出来たらいいのかなというふうに考えております。

○委員長（永並 啓君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

そうしましたらね、この住民さんからいただいている8件の意見も、当然ですけども、それ以外にも私さっき言った平野駅のどうのこうのもあるし、そういったいろんな案が出てくるかと思えますけども、カテゴリーを分けてまとめたほうがいいのかなど。

いわゆる何点目かのやつにありましたけども、ポイントを新たに設置するみたいな、それはもう多分、非常に難しいことやと思えますのでそういった意味で、現状の線路形態でいける案、それからちょっと線路のね、形状を変えなあかんポイントを追加せなあかんような場合だったらこれがいけるねとか、そういった形で何かカテゴリーを設けて、そのカテゴリーに合うやつはどれとどれかみたいな案をまとめていってね最終的にこれとこれがいいねみたいなそんな

ふうなまとめ方をしたほうが、私は、より具体的でわかりやすいのかなとこう思ったりするんですけど、どうでしょうかね。

○委員長（永並 啓君）

まとめ方の方法はまたいろいろあるかと思いますが、今中川委員おっしゃっていただいたほうがわかりやすいかなと僕も聞いてて思いましたんで、そういう方向で行きたいなと思ってます。

どういう要望事項になるかまだわからないですし、そこを今日は聞いて集めたうえで考えたらいいかなというふうに思ってます。

○委員長（永並 啓君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

そういった意味では、現状の状態で何か打てる対応の一つになるかどうかかわかんないけども、要は妙見口から山下駅へ来て乗り換える分については同じプラットフォーム移動だから、別に問題ない。

それは私、理解出来ますけど逆に帰ってくる場合ね、能勢口から妙見口帰ってくる時に山下で乗換えするのに、不便というのが一番のネックな部分なのでいろんな意見が出てきてると思うんですけども、それは乗換えの時間が余りにも短か過ぎて、高齢者の方とかが間に合わないみたいなのも当然あるのかなと思いますけども、たしかあそこの駅は、エスカレーターはないけども、エレベーターはありましたよね。だからエレベーターがあるからとりあえずエレベーターまで行けば、東隣のホームから隣のほうまでの移動は平面移動やから、別に問題ない。

ある程度、それ解消できるのかなと私は思いますんで、そういった意味ではその状況も踏まえると、乗換え時間が余りにも短いというのをちょっと乗換え時間を余裕持

たせるようなダイヤにできるかどうかかわかんないけども、そういうことをすれば、ちょっと満足していただける方も増えるんじゃないかなあと思ったりもいたしましたので、意見として言わせていただきます。

○委員長（永並 啓君）

管野議長。

○議長（管野英美子君）

おはようございます。管野です。

日生中央の時刻表を見ていたら、6時台が9便で7時台が11便、川西能勢口に行ってます。

全部で6便、梅田まで日生エクスプレスが走っているということなんですけど、これ今まで妙見口から出ていたものを日生のほうへ持って行かれたと思うんですね。例えば7時台の11便って言ったら、その半分でも妙見口から発車していたと思うんですね。

ですから、何か豊能町が試されているんじゃないかと思うんですね、まちづくりで。一日あたりの平均乗車数が日生は8,818、笹部から妙見口まで5,295だからね、そんなに全て持っていけるっていうことが私には理解が出来ないということ。

もう少し早くこういうふうに私も勉強すれば、1月13日に訪ねたときに、意見言えたのかなと思いますけれど、やはり山下乗換えしているうちの子ども6時20何分に行ってるんですけど、やっぱり今まで光風台から乗って、川西能勢口まで座って行けた、朝早いですからね。

それが、山下乗換えで日生エクスプレス乗ったらもうずっと立ってる状態になるっていうんで、朝夕の直行便、何便か出させていただきたいと思いますし、それから、こんなマイナスのことを言うたらいいのかどうかわかりませんが昼間そんなに乗ってなかったら20分ヘッドで直行便っていう形

はどうかと思います。

○委員長（永並 啓君）

はい、ありがとうございます。

一度能勢電鉄を先日訪問した際も、どうも能勢電鉄さんも10分ヘッドっていうものには非常にこだわりを持ってらるっていうような印象は受けました。

ちょっとね一番今利用されている住民さんもある程度人数が減っていることも理解されてるし、今のままでなかなか難しいというのも理解していただいている方も結構おられるんですが、今回のダイヤ改正の方法で具合が悪かったのは、余りにも豊能町からの住民の皆さんに不便をかけているにもかかわらず、そういった住民の声というものを全く能勢電鉄が聞かなかったっていうところもあるのかなと。

ここの中で、10分ヘッドを20分ヘッドにしてもいいっていうことが意見としてありますし、それで10分ヘッドのままがいいという意見もあるし、様々な議論してるんですけど実際そこに利用者の声入ってないんですよ。

そういったところが非常に進め方として、これだけダイヤ改正から、何か月か経っても、住民の皆さんの理解を得られていないということの背景がここにあるのかなというふうには考えています。

今議長おっしゃられたような、その間隔をちょっとあけるっていうのも一つの意見として持っていったらなというふうには思っています。

ほか何かございますか。

○委員長（永並 啓君）

管野議長。

○議長（管野英美子君）

町長が就任されて、こういう問題が起こっているということで、町長は能勢電に行かれたんですか。

○委員長（永並 啓君）

はい。上浦町長。

○町長（上浦 登君）

はい。上浦でございます。

私この間2回行ってございまして、1回目はですね就任早々にですね、各自治体のですね、首長への挨拶回り行ってまいりました。

そのときに一度アポなしで行かしていただいて、案の定アポなしでしたので社長にお会いすることなく名刺だけ置いて帰ってきました。

そのあと議会も含めていろいろありましたので、4月の18日にですね、アポをとらせていただいて4月18日の朝一番にですね、私と副町長と能勢電に行行ってまいりまして、就任の御挨拶とですね、それから今後のことはもう、そこはもう雑談ですけども、とにかく就任の御挨拶には行ってまいりました。

以上です。

○委員長（永並 啓君）

町長そのときの感触というか、何か感想でもあれば。

上浦町長。

○町長（上浦 登君）

はい。上浦でございます。

そのときの感覚ですけど、まずですね、おっしゃっておられたのは、コロナです、非常に収益が悪化してきたということで観光事業もやってるけれども、今後はですね、鉄道事業者としてですね、鉄道を守りに行きたいというようなことを主としておっしゃってました。

昨年の12月、1月ぐらい、今年の1月ぐらいからはですね、コロナが落ちついてまいりまして乗客が戻ってきたんですけども、8割5分、85%まで戻ってきたけれどもそこから戻ってこない、というようなこと

もおっしゃっておられまして、そこはまだ分析はしておられないですけども、テレワークとかですね、いろんな形で普段乗れないというようなことが発生しているのではないかなと想像が出来ますが、そのようなことをおっしゃってまして、コロナ前の鉄道の収益ですね、なかなか戻らないというのが非常に痛いということをおっしゃっておられました。

以上でございます。

○委員長（永並 啓君）

はい、ほか何か御意見ございましたら。

寺脇委員。

○寺脇委員（寺脇直子君）

当然コロナとか思っていない事態が起こって、乗客がテレワークとかで減って、収益が減っている。想定してないことが起こってるっていうのはわかります。

では、今後のことについては先ほども言いましたけど、まだその高齢化っていうところは全国的な問題って、先ほど何人かの委員さんもおっしゃってましたけど、豊能町だけじゃなくて、近隣のこの能勢電使っているところも当然高齢化していきますし、その対策をやっぱりしっかりしていかないと、利用する人もっと減ってくると思うんですね。

なんで、豊能町だけが高齢化して利用者数少ないから、何か山下乗り換えしたらいいねん、みたいな感じで。だからそういうことではなくて、交通利用者が高齢化の時代に減っていくじゃなくてむしろバリアフリーとか利用者が豊能町含めて増えていくような、ちょっとそういう新しい何ていうんですかね、交通網の在り方っていうのを、まちづくりの視点も当然含めて、能勢電さんにも取り組んでいただきたいですし、豊能町においては、通勤時間帯だけでも直通にしろらうとか、直行にしろらうと

か、そういうところも、やっぱり利便性がコロナで収益下がったってわかるんですけど、利便性が悪くなったらもっと逆に利用者数が減ってきて、能勢電さんも収益減ってくることにもなりかねないと思うんで、利便性を高めるっていうことは能勢電を利用する方が減っていかないっていうことになってくると思いますし、その辺を町長も能勢電さんと高齢化の対策も含めてちょっと話をしたいってほしいと思います。

○委員長（永並 啓君）

上浦町長

○町長（上浦 登君）

はい。上浦でございます。

そのときにですね、社長ともお話をさせていただきましたけれども、豊能町もですね能勢電の沿線自治体ということで、これからも引き続き沿線自治体であるのは間違いないので、社長とお話しさせていただきましたのは、運命共同体だと私も自治体としては思っておりますということで、ときわ台、東ときわ台の住宅開発を能勢電さんがなされたということも承知をしておりますし、それも踏まえましてですね、今後のまちづくりっていうのは、そのまま高齢化、高齢者の方々ですね、利便性を高めて電車に乗っていただくというのも一つですし、それから今から、先ほどから出ておりますですね、まちづくりをですねどうしていくのか。

能勢電さん、大体の都市から都市を結ぶ電鉄はですね、朝夕これ往復で乗客になられますけれども、これは言い尽くされてますけれども、ベッドタウンのところは、朝、まちなかとかいうか都市に向かって夕方都心から自宅に向かって一方通行になりますので、この一方通行を少しでもですね解消してですね、日中でも妙見口まで来ていただけるような施策をですね、展開してい

くことが必要ではないかと考えてまして、今内部ではですね、るる議論をしているところでございます。

以上でございます。

○委員長（永並 啓君）

はい、才脇委員。

○委員（才脇明美君）

自治体がやっぱりまちづくりのグランドデザインを、事業者に見せて大きな絵を見せて、まちづくりの福祉、医療、教育、その中に、やっぱりこの公共交通というのを位置づけて、大きく見せなければもうならないと思うんです。そして自治体の考えることはこの地域に合ったものを取り組むということが、これがポイントだと思うんです。

これは要望です。

○委員長（永並 啓君）

はい、中川委員。

○委員（中川敦司君）

いろいろ意見出てますけども、私思うにはですね、能勢電鉄、多分使っていただいているお客さんが減っているというね、前に比べて85%までしか戻ってませんみたいなお話ございましたけども、どんだけの人数の人が、妙見線かな乗りはったら、電車確保してくれるのが直通便確保できるのかとかね、いわゆる経営者側からのね、視点ですけども、どんだけのお客さんがいてはんねやったら、直行便出せるやないかとかね。

そういうふうな、一つの数値みたいなのを逆に聞いてみるようなのもいいのじゃないかなと。

いや1万人おったら、妙見口から川西能勢口まで走らせても何とか採算取れますわっていうふうな数値がもしもあるんやったら、その数値に対して今8,000人ですわ。この後2,000人足りませんねんと。2,000人ほ

んだら能勢電としてもお客さんを増やす、当然企業やから努力は当然してもらわなあかんけども、町長おっしゃったように運命共同体とおっしゃってたぐらいやから町長もそうしたその残りの1,000名ぐらいはうちのね、何か取組でちょっと何とか利用客を増やすような取組をやっていますみたいな感じで数値的な目標を設けて、何ぼ足らんからその分をどうやってやっていくんやみたいなのをお互いにちょっと知恵出し合って、能勢電ではこんなふうなことで、お客さん増やしていこうやないかで、豊能町はこんなことやってお客さんを増やしていこうやないかみたいなの、そういう具体的なね、数値と、取組、そういったものを明確にしてやっていくのが私いいのかなと思ったりもしましてね。

そういった意味では、どれだけの人数、お客さんが乗ったらいけるんやみたいなの、そういったところも逆に聞いてあげるか聞かしてもらうのも私大事じゃないかなと思ったりもしましたので、御意見させてもらいました。

○委員長（永並 啓君）

なかなか交通特別委員会の範囲も超えて、まちづくりのところも入ってきてはいるところではあるんですけど、当然、今回の能勢電さんのダイヤ改正の背景に、豊能町がもっと明るい未来、人口が増えそうな乗客数が増えそうな未来を、常々示しているのであればここまでのことにはなってなかったのかなという感想も持ってます。

そういった意味からも、まちづくりっていうものを、上浦町長筆頭に一生懸命やってもらって、それで能勢電のほうにももっと協力してよってというような方法も非常に重要なことではあると思います。

ただ、交通特別委員会の中で要望していくっていうことに関しては今、別にその高

齢化によって利用者減ってるのは、豊能町のところだけじゃないんですよ。

もう日生のほうも減ってるし、当然、全ての沿線で鉄道利用者自体が減ってますんで、そういったところを考えると、そういうそういった対策をそれぞれの自治体がこれからしていくと思います。

そういった取組はもちろん重要ですが、今回の交通特別委員会を設置した目的の一つは、12月のダイヤ改正において、余りにも豊能町の利用者に対して、ちょっと酷なダイヤ改正になってるのでその部分の改善ということを中心に考えていけたらなと思っておりますんで、その点を踏まえてよろしくお願ひしたいと思ひます。

ほか何かございますか。

今ざっくりこれまでの議論の中で、出てきた意見としては、当然まちづくりっていうところも踏まえてというのは一つ重要であります、要望の際はちょっとなかなかその具体策までまとめることも出来ませんので、そこはちょっと置いておくと中川委員がおっしゃっていただいた、平野駅での往復、連結になるのかな、平野駅での乗り換えみたいなものをしてもらうっていう方法とあとは住民の皆さんから意見をいただいている山下駅での乗り換への何かちょっと間隔をちょっと延ばしたりとか、ちょっと連結器をどうかちょっと改造してか何かできるかできないか、エスカレーターを設置してはとか、そういった声を具体的な案がございませうけども、それ以外にもし何かございましたら教えていただけますか。

○委員長（永並 啓君）

はい、才脇委員。

○委員（才脇明美君）

10分ヘッド、15分ヘッド、20分ヘッドなんですけど、この間隔が。ちょっと長くなったら地価が下がるよと言うておられるそ

うなんですけど、それはどうなんですか。

○委員長（永並 啓君）

そこに関しては、当然ね、電車がもう地方に行けばバスが1時間に一本しかないとかそういったところを考えると、当然10分に一本あるほうがいいっていう声はあるかと思ひます。

ただ、どこまで考えるかですが、地価問題を考えて10分を維持するのがいいのか、それとも、今現に利用されている利用者さんを踏まえて10分延ばしてでも直通を増やしていくほうがいいのかっていうところは、ここの中でいろいろ議論を重ねてまとめていけたらいいのかなというふうにお願ひします。

委員からないようでしたら、理事者のほうから何か、こういった意見が、こういった取組をしてはどうか要望してはどうかというものがございましたら、教えていただけますか。

○委員長（永並 啓君）

松本総務部理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい、松本でございます。

この時間ちょっといただきましたので報告だけさせていただきますと思ひます。昨日なんですけれども、西地区の自治会長会に参りました。

目的としてはAIオンデマンド交通の2か月の検証の結果と、今年度ですねどのような取組をするかというような、そのようなお話をさせていただいたんですけれども、やはりその中で説明終わった中で能勢電の話が出てまいりました。

西地区の自治会、自治会長会の中でもその議論を継続していきたいというようなことをおっしゃられてまして、私たちが入らせていただく前にもですね、その話を少し

していたと。

情報共有を行政のほうからも、今後していただきたいというようなことはお伺いしたということでございます。

○委員長（永並 啓君）

はい、ありがとうございます。

具体的には今ないかな。

上浦町長。

○町長（上浦 登君）

上浦でございます。

具体的にですね、こうしたらいいんじゃないかいうところまでは、まだ内部で議論をしてございません。

また、この委員会でいろいろ御議論をさせていただいてですね、そのうえで能勢電にですね、要望をしてまいりたいと思えますし、それとは別にですね、日頃からやっぱり、この交通事業者、阪急バスも含めてですね、行政とのですね、コミュニケーションというんですかね、お互いに顔の見える関係をつくっておくのが大事なのではないかなというのをベースに感じてございます。

以上でございます。

○委員長（永並 啓君）

それはぜひとも積極的に、以前はちょっとその部分は非常に少なかったかと聞いておりますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

それでは今まで出た意見の中で、少しちょっとお時間をいただきまして、事務局の方にちょっとお手数をおかけするかと思うんですがいろいろ実際にできる範囲で、費用の問題も含めて、次の交通特別委員会のときに示させていただけたらなというふうに考えてます。

それで、そのときにまとまるかわからないですけども、中川委員のお示しいただいた費用をかけずにやる方法、ほいで費用は

これくらいかかってもぜひともやっていただきたい方法、また寺脇委員や高尾委員からもおっしゃられたように、バリアフリーのほうからも何か取組が出来ないのかっていうところも踏まえて、あと才脇委員も何度もおっしゃっていただいたまちづくりのところ、これはちょっとすぐにどう具体的に何かというものを示せるかどうかわからないですがそういったところをまとめて次回、交通特別委員会をする際に、皆さんにお示し出来たらなと思えますが、そういう形でよろしいですか。

それではちょっとそういう方向で進めていきたいと思えますので、では一つ目の項目については以上で終わらせていただきたいと思えます。

次に2番目のその他ですが、AIオンデマンド交通の件と、東地区デマンドタクシーの件もあるのですが、今日はちょっと時間の都合上、案件には挙げてはおりません。

引き続き検証していった対策をとっていただきたいと思えますが今日のところは申し訳ございません、時間も限られておりますが、ほか委員の方何か御意見ございませうでしょうか。

ないようですので、以上で本日の交通特別委員会はこれで閉会したいと思います。

これに御異議ございませうか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（永並 啓君）

異議なしと認めます。

よって本委員会は閉会することに決定いたしました。

これをもって第2回交通特別委員会を閉会いたします。

どうも御苦勞様でした。ありがとうございました。

午前9時46分閉会

以上、会議の次第を記し、これを証するためここに署名する。

令和 年 月 日署名

豊能町議会 交通特別委員会

委員長